

1 東大寺南大門に安置されている、力強い表現が特徴の金剛力士像を制作した仏師は誰？

2 日蓮が人々の救いとなることを推奨した「南無妙法蓮華經」という言葉を何という？

3 鎌倉時代後半に、荘園領主や幕府の命令を無視して年貢を奪い、実力行使によって抵抗した集団を何という？

4 踊り念仏を広めながら全国を巡る一遍の様子が描かれている絵巻物を何という？

5 11世紀末、ローマ教皇の呼びかけで、イスラム勢力から聖地エルサレムを奪還するために組織された遠征軍を何という？

6 『枕草子』や『方丈記』と並び、日本文学における重要な3つの随筆をまとめて何という？

7 鎌倉時代に時宗を開き、踊り念仏で教えを広めた人物は誰？

8 鎌倉時代に広まった新しい仏教の一つである時宗を開き、念仏を唱えながら踊るといふ布教方法をとった僧侶は誰？

9 『徒然草』のように、筆者が日々の出来事や感じたことを自由に書き留める文学形式を何という？

10 鎌倉時代に、承久の乱で朝廷側と戦い、勝利を収めた一族を何という？

11 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？

12 元軍の再来に備えて、北条時宗が博多湾岸に築かせた防壁を何という？

13 運慶が快慶らと協力して制作した、奈良の東大寺南大門に安置されている有名な彫刻作品を何という？

14 鴨長明が乱世における世の無常を記した、日本三大随筆の一つとされる作品を何という？

15 後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして起こし、幕府がこれを鎮圧した戦いを何という？

16 鎌倉時代に領地を複数の子に分けて引き継ぐ慣習を何という？

17 平安時代末期に、ただひたすら念仏を唱える教えを説き、浄土宗を開いた僧は誰？

18 法然が開いた浄土宗が拠点とし、教えを広めた場所はどこ？

19 鎌倉時代、源頼朝が全国の荘園や公領の管理・年貢徴収をさせるために設置した役職を何という？

20 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？

21 『方丈記』や『枕草子』、『徒然草』を総称して何という？



① 書く
鉛筆で答えを書く

② 隠して言う
赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

③ 印を付ける
言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	運慶 は、それまでの仏像と異なり、筋肉の動きや表情の細部までリアルに表現する彫刻手法を確立しました。		運慶	☐
2	日蓮は『法華経』の功德を信じ、その 題目 である「南無妙法蓮華経」と唱えることこそが、最も確実な救済の手段であると説きました。		題目	☐
3	悪党 は、荘園領主や幕府の統制を無視して、力づくで年貢の徴収を妨害したり、所領をめぐる紛争を起こしたりした武装集団です。		悪党	☐
4	一遍上人絵伝 は、時宗の開祖・一遍が各地を巡り、踊り念仏を広めて多くの人々に救済を説く姿を描いています。		一遍上人絵伝	☐
5	遠征は複数回にわたって行われ、盾に十字の印をつけたことから「 十字軍 」と呼ばれます。		十字軍	☐
6	『枕草子』（清少納言）、『方丈記』（鴨長明）、『徒然草』（吉田兼好）の3つを総称して「 三大随筆 」と呼びます。		三大随筆	☐
7	一遍 は、踊りながら念仏を唱える「踊念仏」を行い、全国を旅して信仰を広めました。		一遍	☐
8	一遍 は時宗の開祖であり、念仏を唱えることが救済につながると説きました。		一遍	☐
9	随筆 （エッセイ）は、決まった形式に縛られず、個人の内面や世の中に対する洞察を記すものです。		随筆	☐
10	承久の乱が起こると、執権・北条義時のもとで幕府軍は京都へ進撃しました。		北条氏	☐
11	制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「 貞永式目 」とも呼ばれます。		貞永式目	☐
12	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、 石築地 （元寇防壁）を築かせました。		石築地	☐
13	東大寺南大門に配置された 金剛力士像 は、運慶と快慶らの工房が分担して短期間で完成させました。		金剛力士像	☐
14	『 方丈記 』は、こうした激動の時代を生きた鴨長明による随筆です。		方丈記	☐
15	1221年、後鳥羽上皇は幕府を倒すよう命じましたが、北条政子の演説で結束した幕府軍が京都へ進軍し、朝廷軍を撃破しました。		承久の乱	☐
16	分割相続 とは、武士の家督を継ぐ際に、所有する領地を子供たちで等しく分ける方法です。		分割相続	☐
17	法然 は、ただ念仏をとなえることで阿弥陀仏の救いを得られるという「専修念仏」の教えを掲げ、日本初の念仏専用の宗派である浄土宗を開きました。		法然	☐
18	吉水 は法然の住居があった場所であり、ここを中心に念仏の教えが貴族や民衆にまで広く伝わっていきました。		吉水	☐
19	1185年、頼朝は朝廷から各地への「 地頭 」の設置を認めさせました。		地頭	☐
20	栄西 は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。		栄西	☐
21	随筆 は、決まった形式にとらわれず、筆者が感じたことや考えたことを自由な文章でまとめたものです。		随筆	☐

言えなかった用語ノート